

「Leadershipってなんだろう」「学校を変えるってどういうことだろう」 全国を先導する「改革派リーダー」の信念と経験と哲学が心に響く!

キリリとした秋の空気が吉田キャンパスを包んだ11月9日(土)。現職教員20人、教職大学院生11人、指導者3人と大学スタッフ11人の計45人が参加して「第5回研修会」が行われました。

今回は、兵庫県と北海道から素敵なゲストをお招きして、「学校改革」と「リーダーシップ」をテーマに研修しましたが、それにしても、「今回のお二人のようなBignameが登壇されると、ここまで迫力と勢いのある研修となるのか!」と唸るような研修会でした。遠路はるばるお越し頂いたお二人に心から感謝でした。



講義 「これからの学校改革 前例踏襲の壁を乗り越えるには」 指導者 兵庫県神戸市立桃山台中学校 校長 福本 靖 さん



高いご見識、中学校や教育委員会事務局等での豊かなご経験を元に、赴任校改革を進めていらっしゃる福本校長先生。学校改革が目指すもの、改革の原動力、思いを受け止める土台や評価のあり方等について、学力向上やPTA改革の具体を盛り込みながらご講義頂きました。「吉本興業」、ライブハウス、業間放送など、生徒や教職員のためのアイデアもイッパイ。とても豊かな時間でした。

ありがとうございました!(受講者の感想から)

- 教師にとっては、子どもの頃から知っている学校、そこで行われる教育活動、その見てきた景色全てが学校現場のイメージとして定着しています。前例踏襲を乗り越え次々に改革される福本先生の話は、「学校現場の当たり前」を打ち破るもので、カルチャーショックを受けました。「シンプルで大胆」であること、このシンプルな言葉には深い意味があると響きます。
また、人の想いは目に見えないため評価をすることが難しく、教師は教職年数を重ねていくうちに、過去の経験を頼りにして、または思い込みによる指導を行う傾向にあります。個々の判断だけに頼らず「こどもありき」であるために、子どもが何を学んでいるのかをアンケートや数字で示すことにより、評価に繋がり、教師が授業改善を意識して教育活動を行うということを学びました。
最後に、特別支援教育に関わる者として、考えさせられる内容がありました。プレゼン中、「最近の学校を取り巻く状況の厳しさ」の一つに「個に応じた指導の必要性」がありました。特別支援教育が学校教育法に位置付けられたのは12年前です。若い先生方は、特別支援教育の視点を大学で学び、発達障害がメディアに頻出するようになったこともあり、特別支援を熱心に実践されている人は多いようです。しかし一部ベテランの先生方は、元々行っていた業務の中に「特別支援教育の視点」が新たに入ってきた感覚なんだなど。この件は、以前から感じていたのですが、改めて大きな課題だと認識しました。一般校の先生が負担にならず、すぐに実行できそうな支援を伝えていくことは重要です。その支援によって子どもの変容が見られ、学級経営もうまくいくという実感を伴う好循環によって「個に応じた指導の必要性」を感じる教師が増えることが大切と再認識しました。(特別支援学校)
- 率直に「世の中にはこんな素敵な校長先生がいるんだ!」とわくわくしながら拝聴しました。前例踏襲という亡霊は学校現場にたくさん存在します。それを意に介さず大胆不敵に改革に次から次へと着手される福本校長先生の学校経営は実に多くの示唆に富んでいました。学校に戻ったら声を大にして学んだことを多くの先生に伝えたいと思ったほどです。
長年、公立小学校で勤務することで知らないうちにしがらみに取りつかれ、がんじがらめになっているのではないかと振り返りました。子どもたちにとって何がよいのかを常に考え、その軸足がぶれることないよう私も教育の現場でできることに精進したいと強く思いました。(小学校)

★目標は一つ「楽しい学校」

シンプル&大胆に!

学校が「楽しい」3つのポイント

1. 学習面での充実
2. 思い出に残る行事(学級)や部活
3. 良好な友人関係

★学校を動かす原動力

※ルーティンをこなすだけでは×

1. 生徒の想い
2. 保護者の想い
3. 教員のプロ意識(※想いではない)



講義 「ブルドーザーまきこの『笑う学校カイゼン in 山口』」

指導者 北海道小樽市立朝里中学校 校長 森 万喜子 さん



「大人が楽しく生きる姿を生徒に見せて人生に希望を持たせたい。」
赴任直後、校長室のソファセットを取り除き、廃校からテーブルを運び込み...備品や文房具は職員室の一角にまとめ使いやすく...生徒の携帯電話は一括保管...
「ブルドーザーと呼ばれるのよ!」と笑い飛ばされる森校長先生。優しいお人柄、穏やかな語り口の中に、「リーダーとは」「リーダーシップとは」「これって開拓精神?」を考えさせられた一時。ありがとうございました。

ありがとうございました! (受講者の感想から)



「そもそも学校は何のため?」を改めて考えました。「ブルドーザーまきこ」というニックネームをお持ちだそうですが、私に大変繊細で細やかな方に見えました。

(1) 若年層教員研修。「On the Job Training」と言いますが、仕事をしながら学ぶ...では間に合わないことがあります。特に、対人関係で身につけるべきスキルや感覚等はそうでしょう。初任時代を思い出すと、20年前は先輩方が多い時代でしたので、多くのミドル世代の先生

方に指導を頂きました。厳しい指導もありましたが、最後まで面倒を見て下さるといった愛のあるご指導ばかりでした。最近、こう言った関わり方は減ってきたと思います。時間のなさ、ミドル世代の減少、「~ハラスメント」という言葉からの躊躇など原因は多々あると思います。だからこそ、形を変えて紙面に残す、研修会にする等のアイデアが必要であると学びました。

(2) 管理職の魅力。学校を「経営」することの魅力を感じました。「管理職になりたがらない教職員が増えている」と言われていますが、森校長先生のお話を聞きながら、職務の大変さと同時に、創造する楽しさもあるのではと感じます。自分に置き換えてみると、学級経営はやはり魅力的で楽しかったと言えます。「管理職」という立場での学校経営は未知の領域ですが、教職員一人一人が自分のクラス、教科、分掌を持っているのですから、それを経営するといった考え方で仕事をすると、もっと仕事が魅力的に感じられるのではないかと感じています。余談ですが、「教育に笑いを」の会は、私も時々参加しています。(中学校)



このようなパワフルで行動力のある森先生であるが、きっと生徒や教職員に対する「ケア」は大切になさっているんだろうと感じる。学校のためだから、生徒のためだからと言って独断専行の校長であれば他の教職員はついてこないだろうと。改革として大きな行動を起こすのであれば、それに応じた「ケア」を普段から行う必要がある。森先生の教職員に対する「アンケート調査」自体がその一環で、「声の大きな教員の意見だけ通すわけにはいかない、発言できない教員の意見も出せるような工夫を」との森先生ご自身の取り組みが「ケア」の1つだろうと感じた。

これから若手教員となる私がいきなり改革を起こすことは不可能に思えるが、このような細かな気配りや行動力をぜひ見習いたい。学校のシステム自体を大きく変える必要はなく、いかに学校、教職員や生徒たちのことを思い、行動に移せるかが大切である。これはキャリアに関係なく問われることで、私もできることをコツコツと行動に移せるような教員になりたい。(ストマス院生)

午後は 今回も「ちゃぶ台次世代コーホート」に! 乗り込んで「指導助言・実践発表」体験の研修!



① 特別講義 「学校・家庭・地域の連携による地域の活性化」
北海道科学大学 教授 (文科省CSマイスター) 出口 寿久 さん

② 実践事例発表 「私の学校のやまぐち型地域連携教育の実際」

③ 保護者との座談会 「保護者の思いと学校への期待、学校の思いと保護者への願い」 県PTA連合会の皆さん

午後は「第6回研修会」の「体験型研修(実践発表や指導助言等)」で語って貰いました。お見事でした!



ありがとうございました! (受講者の感想から)

「おやじの会」の存続についてお話をうかがいました。おやじの会OBの方のおかげで現役の入会が増えていること、保護者が集まって活動することで保護者の社会性が育まれること等が印象的でした。以前、玉川大学の難波先生が「父親の存在を学校で見せることも大事。なぜかいじめは減る。」とおっしゃっていました。子どもながらに、自分も相手も大切にされている存在だということを知ることができからなのかと納得ができました。そういった意味でも、保護者の皆さんの熱も学校を元気にできるパワーがある!と改めて感じました。こういう機会は本当に有意義、有効と思いました。(中学校)

